



学園の前の桜並木、きれいに紅葉した落ち葉を、毎朝子どもたちはせっせと掃き清めます。はらはら落ちる落ち葉と、ほうきの音。間もなく吐く息が白くなるでしょう。二学期の学びの様子を今号もお伝えいたします。

京都・奈良歴史旅行 (6年生)

10月31日～11月3日の三泊四日で京都・奈良歴史旅行に行ってきました。日本史で学んだ、奈良時代～平安初期の文化に触れることが目的ですが、それに加えて今年は京田辺シュタイナー学校の6年生との交流もしっかりしてきたいという目的がありました。

京田辺の6年生担任の安藤先生と1年以上前から相談し、京田辺のご家庭での1泊ホームステイと両校合同での飛鳥サイクリングを実施しました。夏休み明けから2度の手紙の交換をすると同時に、お互いのクラス写真も交換しあい、教室の壁に貼って会うまでに名前を覚えられるようにするなどして当日に臨みました。

まずは京都で、清水寺、産寧坂・二年坂、八坂神社、三十三間堂を回って京田辺へ向かいました。予定より一本遅い電車になってしまったこともあり、京田辺のみんなは校庭に出て今か今かと待っていてくれて、駅から向かう途中、わたしたちの姿を見つけたとたん大歓声で迎えてくれました。到着すると荷物を運んでくれたり、名札を付けてくれたり、至れり尽くせりの歓迎を受けました。簡単な自己紹介の後、事前に割り振ってあった2日のサイクリングで回る名所、遺跡の担当ごとに分かれ当日の説明の打合せをしました。それが終わるころにはすっかり打ち解け、おやつを食べてドッチボールをひとしきり楽しんだ後はホームステイ先へと出かけていきました。

安藤先生の絶妙なカップリングで、まるで兄弟姉妹のような組み合わせが出来上がっており、翌朝駅で再会した時には本当の家族のようになじんでいました。

一旦京田辺のみんなとお別れし、一路奈良へ。唐招提寺、興福寺と回り、奈良公園で各ご家庭で作っていただいたお弁当をいただき鹿と戯れた後、東大寺では例年お世話になっている飯田むつみさんと合流し案内していただきました。この日は前日の疲れもあり、みな翌朝までぐっすり眠っていました。

朝食を済ませると、電車で飛鳥へ移動。途中で京田辺のみなさんと合流しにぎやかに飛鳥に到着。駅のわ

きにあるレンタサイクル店で自転車を借り、出発。途中小さなアクシデントに見舞われながらも楽しく飛鳥を回ることができました。甘樫の丘からの眺めはみなを古代へと導いてくれました。



別れ際に住所交換をし再会を約束して京田辺のみんなが乗った電車が見えなくなるまで手を振りあっていました。夕方宿近くのならまち近辺をグループで散策した後、前日東大寺を案内して下さった飯田さんがフランスシターという楽器を持って宿に来て下さり、皆でお鍋料理をおいしくいただいた後、演奏をしてくださいました。一日の最後、シターの演奏は心地よく響き、最後に歌ったお礼の歌はその響きに合わせ最高のハーモニーを生み出してくれました。

最後の日は法隆寺でボランティアガイドさんの丁寧な説明を受け、秋の特別拝観中だった上御堂の釈迦三尊像や夢殿の秘仏救世観音も拝み大満足で帰って来ました。

帰宅後数日間は妙な関西弁が話されており、まだまだ旅行の余韻が残っています。

(6年生担任 黒沼亜矢)

農業実習 (9・10年生)

シュタイナー学校の高等部では9年生から11年生までの3年間で毎年「社会実習」を行うようカリキュラムで定められています。9年生ではクラス一緒に「農業実習」、10年生では2,3名ずつに分かれて「職業実習」、そして11年生では一人ずつ働く場所が違う「福祉実習」を行います。よく見ると、グループから個へ、第1次産業から第3次産業(サービス業…転じて福祉活動)へと学年を上がるにつれて変化していることに気づかれるでしょう。シュタイナー教育の学びのゴールは、「自立した、自由な生き方の出来る大人」です。社会実習はその目標へ向かうステップだと考えることができます。

横浜シュタイナー学園の1期生も、いよいよその大人への最初のステップに立つことになりました。

学校法人シュタイナー学園の9年生を長年受け入れていらっしゃるというご縁から、熊本県は南阿蘇の「ぼっこわば耕文舎」に2週間の実習受け入れを快諾していただき、今回それが実現しました。その記念すべき第一回実習の模様を、生徒たちが綴った日誌をご紹介しますながら足早に振り返ってみましょう。

わたしは、10月6日、クラスで羽田から阿蘇へ飛んだ。1時間くらいのフライトであった。有明上空に差しかった後、少し揺れた。しかし、無事にボーイング767はランディングした。その後、ディーゼルカーに揺られて肥後大津、立野、長陽を経てぼっこわばに到着。主人のドニーさんは彫りの深い顔の奥に優しい瞳の輝いた人であった。妻の祥子さんは「母さん」と言う言葉が似合う女性だ。もう一人、住み込みのよっちゃんという人がいた。朴訥(ぼくとつ)な感じの良い方だ。今日から泊まる山荘もなかなか良い。

まずは初日。何もかもが初めてで新しい出会いに満ちていた日でした。筆者は冷静を装っていますが、内心かなり興奮していたはず。出迎えてくださったぼっこの人々の第一印象を書いています。実に端的に特徴をとらえていると思います。

10月7日。今日はぼっこわばで朝ご飯を食べると二組に分かれて農作業を行った。長井先生と巳莉乃と奈璃と万美子と侑里とよしのりさんとヴィヴィアンさんとわたしは夏の間きゅうり畑だった所の雑草を農業用トラックに積み込む作業を3時間やりました。1時間に1度、休みが取れました。その時、帽子と軍手と上着を脱ぐことができ、涼しかったです。最初はテンションMaxで作業していましたが、最後の1時間はとつてもきつかったです。昼食

の後は、ドニーさんの「農業の歴史」の講義を聞き、残りの時間はサツマイモ掘りをしました。始めはなかなか掘り出せず、つまらなかったのですが、後半になるとコツを掴むことができ、すごく楽しくなりました。が、同時に腰が痛くなりました。とても疲れましたが、それ以上に楽しかったです。

いよいよ本格的な農作業のお手伝いです。巨大なフォークやよく切れる鎌など日ごろ使い慣れない道具を手にして腰を曲げたりのぼしたりの作業を繰り返し、一同フーフー言いながらも最後まで粘り強く良く働きました。1日の作業の終わりには歩いて10分ほどの所にある温泉へ行き、汗や土埃を流しました。

10月10日。今日は朝から阿蘇山へハイキングに行きました。初めは阿蘇火山博物館で火山について学び、その後は杵島岳に登りました。杵島岳頂からの景色はとつても綺麗でした。それに、(中岳の)火口まで良く見えました。次は大観峰まで車で行きました。そこからはカルデラの外も内もよく見えました。少し雲がかかっていたけれど…。そしてその後は池山水源に行きました。個々の水はとつても透き通っていて、とつてもきれいでした。今日はとつても疲れたけれど、学びの多い一日にすることができた気がします。今日の中で一番心に残っている景色は、杵島岳からの景色です。



せっかく遠い熊本県までやって来たのですから、熊本、阿蘇ならではのものもしっかり見ておこう。と事前に熊本ゆかりの夏目漱石や小泉八雲、火山の仕組みなどについて学びました。そして、農作業の合間に少しお休みをいただき、「遠足」を行い、阿蘇の中岳周辺と池山水源、熊本市内、それに近くの白川水源を訪ねました。皆、作業の時は別のリラックスした表情で自然や町を味わっていました。

ぼっこわばでの農作業は多岐にわたります。イモ類の収穫、ミニトマトやつるむらさきのハウスの片づけ、

来年春以降に収穫する玉ねぎやニンジンの苗の世話をニンニクの植え付け、牛の飼料（牧草）刈り。農家は常に畑をどのように生かし、休ませるかを考え抜いた上で、実に計画的かつきめ細やかに仕事をしているのだなあと都会育ちのわたしにとって初めて知るこばかりでした。

10月15日。今日は面白くて楽しい作業がいっぱいありました。まず、午前はニンジンの間引きとニンジン周りの雑草取り、ニンニク植え、午後は玉ねぎ畑の雑草取り、マルチはがしをしました。こまごまとした作業が多くて、自分的には楽しかったです。ニンジン間引きは、ニンジンが混み合っているのを、距離を空ける様にするのが初めはよく分からなかったけれど、最後にはわかるようになりました。ニンニク植えも初めてでした。ニンニクをマルチに植え、土をかぶせました。午後の玉ねぎの雑草では、前より雑草が伸びていて、びっくりしました。相変わらず作業は面白かったです。マルチはがしでは、わたしのやったところは、土がわりとふかふかで結構スイスイといけました。今日の作業は今までの中で、一番時間が早く過ぎた気がしました。作業が楽しかったからなのだと思います。



このようにして、出発前には「13日間もいたら飽きるだろうなあ。」と言っていた農業実習は、飽きるどころかあっという間に最終日を迎えました。

10月18日。お別れの日でした。朝食をさっさと済ませ、皆で記念写真を撮り・・・とゆっくり別れを惜しむ時間はありませんでした。ぽっこの皆さんと別れた後、奈緒美からもらい泣きをしまいそうでしたが、何とか抑えました。空港に着き、周りを見ると「阿蘇に戻りたい。祥子さんに、ドニーさんに、よっちゃんや他のぽっこの人たちの所に戻りたい。」と言う気持ちがこみ上げてきました。また温かい「ぽっこファミリー」に会いたいです。

生徒たちは阿蘇で出会った方々のことを「皆温かくて親切だった」と話していました。勿論その通りでした。しかし、一方で見知らぬ人々との出会いを大切に

し、笑顔で過ごした彼ら・生徒たちもまた現地の方々にとって「温かな存在」となり得たはずですよ。

初めての社会実習としての農業実習は単に農業を学ぶだけでなく、人と人とのふれあいや友情の大切さを学び直す大変良い機会になったようです。この体験が、彼らにとって今後の成長の糧になるであろうことは想像に難くありません。

(9・10年生担任 長井麻美)



学園周辺散策会（秋）開催のご報告

秋冷の11月初旬の週末、転入学検討中の方を対象に、豊かな周辺環境を体験する散策会を開催しました。今回は3組の参加があり、父母4名、年中から4年生までのお子さん4名(計8名)で里山歩きを楽しみました。

霧が丘校舎校庭に3年生が建てている家の脇を抜け、公園やコミュニティ施設を縦横に結ぶ生活歩道「赤みち」へ。公団住宅街では、引越し検討中の方から地域の生活情報について質問が。開校初期から霧が丘に暮らす引率の保護者が丁寧に対応してくれました。街と里山の境界線を走る「尾根道」から街を一望に見渡し、深い森を歩いて収穫後の谷戸田を抜け、ゴールの土曜朝市へ。地域の物産を物色する頃には、子どもたちのお腹はぺこぺこ。一般開放されている古民家・旧奥津邸で、冷えた身体を暖めながらお昼ができたのは幸いでした。

参加者は一様に豊かな環境への驚きを口にされ、「学園説明会の標準プログラムに加えてほしい」という声も出たほどでした。

(事務局 佐藤雅史)

インフォメーション

2013アドヴェントの集い

クリスマスを中心にする時期、
美しく飾られた学園をお楽しみください。
日時：12月1日（日）10：30～14：00
会場：霧が丘校舎（入場無料）

★音楽会とおはなし（11:00～/13:00～ 各40分）

- ・ライアー演奏
- ・クリスマスのお話
- ・生徒による小さな音楽会

★親子で楽しむクリスマスワーク

★保護者の手づくり品販売

★喫茶

★学園紹介パネル展示・入学相談コーナー

★星の金貨（スクールショップ）

2014年度入学説明会（2次募集）

入学を検討されている保護者対象の説明会。

日時：

12月7日（土） [A] 10:00～12:00 霧が丘校舎

12月14日（土） [B] 10:00～12:30 十日市場校舎

内容：[A] 「シュタイナー教育とは」「教育内容について」

[B] 「保護者の学園への関わりについて」

参加費：無料

保育：あり（別途保育料要）

※14年度に入学をご希望の方は、A、B両方の回に必ずご出席
ください。できるだけ両親で参加されることをお勧めします。

[A]→[B]の順に両方に参加された方に、[B]終了時に入学願
書（1,000円）を配布します。

[B]終盤には在学保護者との茶話会。おいしいお茶とお菓子を
用意してお待ちしています。

月例祭 一般公開

一学期ごとに各学年の日ごろの学びを披露する会です。

日時：12月21日（土）11：00～12：30

場所：緑公会堂 横浜市緑区寺山町118（緑区総合庁舎内）

参加費：無料（※参観は大人のみ）

保育：あり（別途保育料要）

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.com

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店（せーじょう店）当座0130702

茶話会/校内見学会

学園の雰囲気を感じていただけるこの機会に、どうぞ
お訪ねください。

茶話会（木曜日）

日にち：11/21・1/23・2/27・3/13

時間：10：00～12：00

校内見学会（金曜日）

日にち：11/22・1/24・2/28

時間：15：30～16：30

参加費：無料

場所：霧が丘校舎

学園にご興味・ご関心のある方はどなたでもお越しください。
お子様連れも可です。

※お子様の上履きはご持参ください

☆星の金貨より☆

星の金貨オリジナル「くるみのアドヴェントカレンダー
手作りキット」（1セット3,000円）についてのお問い
合わせは、hoshi-kinka@freeml.com までお願いいた
します。

訂正のお知らせ

先月（2013年10月）発行の65号に間違い
がありました。
お詫びして訂正いたします。

66号p1.「秋の祝祭について（ミカエル祭）」
19行目

誤 「流星（隕鉄・硫化鉄）」の（硫化鉄）は
誤りです。

↓

正 「流星（隕鉄）」

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第66号

2013年11月18日発行

編集：広報の会

発行：NPO 法人横浜シュタイナー学園

<http://yokohama-steiner.com>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載はお断りします。